

## 山内淑郎の功績

長崎街道や日田街道などが通る筑紫野市域は、古くから文物の交流が盛んでした。その影響もあって、長崎街道の原田宿では、宿場役人たちによる歌会や神官による村人の教育が熱心に行われていました。

山内淑郎は、原田宿で庄屋をしていた高尾屋の三男として、1849年（嘉永2）12月7日に生まれました。成人になるに従い人格も優れ、学問を修め、若くして村の知名士になっています。

1875年（明治8）、わずか25歳で保長（庄屋格または組頭）、その後原田、筑紫、諸田3村の副戸長（副村長格）、次いで武蔵、塔原、杉塚3村の副戸長に転任。さらに原田、筑紫村戸長となりました。山口村など6村の戸長を経て、1886年（同19）に二日市村など5村の戸長となりました。現在の筑紫野市域で、明治初期の地方政治を支えた一人でした。

当時、筑前、筑後、肥前の国境となっていた三国峠は、長崎街道の険しい山道だったため、開削の要望が高まっていました。山内家資料によると、明治16～17年にかけ戸長の淑



▲山内淑郎の記念碑



▲筑紫神社の参道。左側に記念碑がある。

郎は「三国峠開削費用」についての願書を、福岡県令や御笠郡長に提出しています。工事が難航したのか、経費の一部に当時の金で151円を自ら寄付し、ほかに地元からの寄付も加えようやく開通させました。1889年（同22）末に九州鉄道（現JR鹿児島本線）が開通、昭和初期には国道も開通して原田は文字通り交通の要衝となり、経済動脈としての役割も高まりました。この



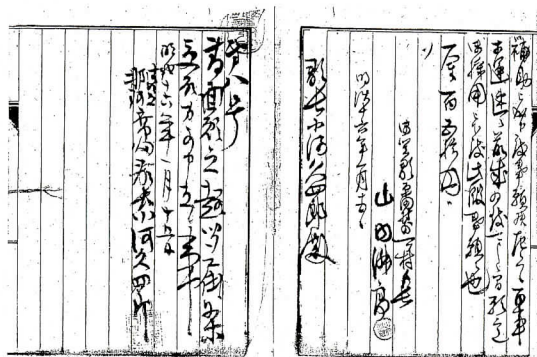
きっかけをつくったのが山内淑郎の功績といえるでしょう。

淑郎は、新しい時代を迎えて青年の教育向上にも力を注ぎ、1884年（同17）には「御笠郡七番八番学区」学務委員となり、「公立御笠中学校建設とその経費」として15円60銭を寄付しています。しかし、病に倒れ、1887年（同20）1月17日死去、39歳という若さでした。

淑郎は政治家への夢も抱いていたようで、西南戦争後に高まった自由民権運動の中で「公道博愛」「自修自治」を掲げた筑前共愛会の支部役員に選ばれています。御笠郡の代表、三木隆助（当時衆議院議員）らとも交遊がありました。こうした地域発展に生命をかけた貢献に対し、地元有志が彼の死を悼んで、死去した年の末に記念碑を氏神筑紫神社の境内

に建立しました。

〈参考〉原田 山内花子資料、筑紫野市教育委員会編『筑前原田宿』1994



▲三国峠の開削費として提出された150円の補助金申請書

